

# 第37回 (H28.秋) 佐鳴湖水質調査の結果



平成28年12月 佐鳴湖地域協議会

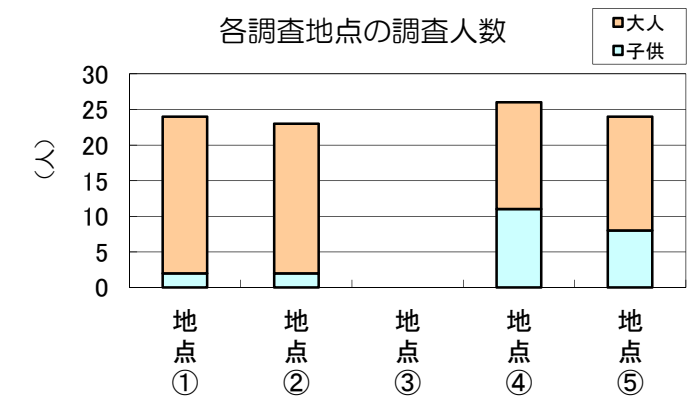
佐鳴湖では、住民の方々にご協力いただき、四季ごとに水のきれいさや生物の豊かさなどを調査しています。平成19年10月から始めたこの調査は、今回で通算37回目となりました。

調査は大きく分けて「アンケート調査」と「簡易水質調査」の2つがあります。「アンケート調査」は、調査地点の水を見たり触れたりしてもらい、評価や感想を回答いただくものです。「簡易水質調査」は現地で簡単な器具を使い、水質をその場ですばやく判定するものです。それらの結果と、静岡県が詳しく測定した水質の調査結果をあわせて、「人と湖沼の豊かなふれあいの確保」や「豊かな生態系の確保」などの視点から、佐鳴湖の環境を評価しています。

視点	調査の内容	
	アンケート調査	簡易水質調査
人と湖沼の豊かなふれあいの確保	ごみの量、水のおいしさ、湖底の様子、アオコ発生、水辺の音、水の透明さ、水とのふれあいやさ	透視度、透明度、700フィルの簡易確認
豊かな生態系の確保	水辺の植生、水生生物	溶存酸素(DO)、アモニア態窒素(NH <sub>4</sub> -N)
湖沼の基本的特徴の表現		pH、COD



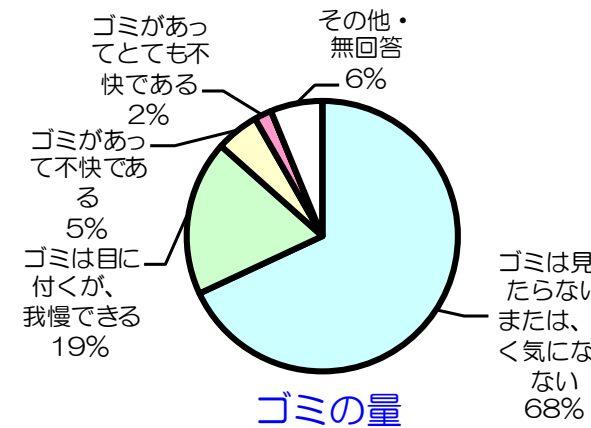
調査日時：平成28年11月26日(土)  
9時~12時  
参加人数：51名  
(大人38名、子供13名)  
調査地点：4地点



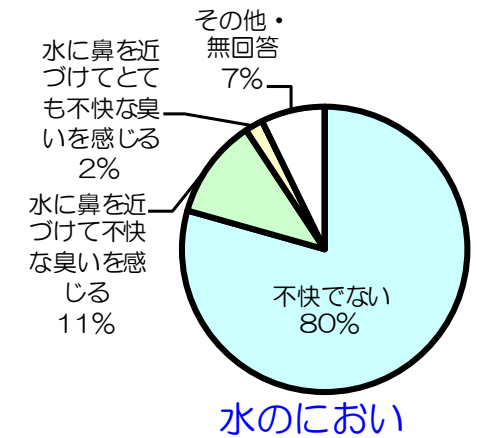
※地点③については、今年度は調査をしていません。



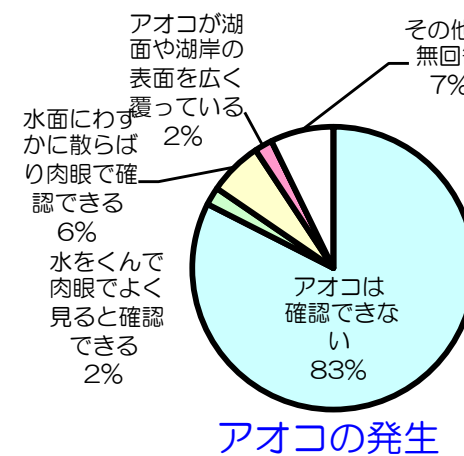
## アンケート調査の結果



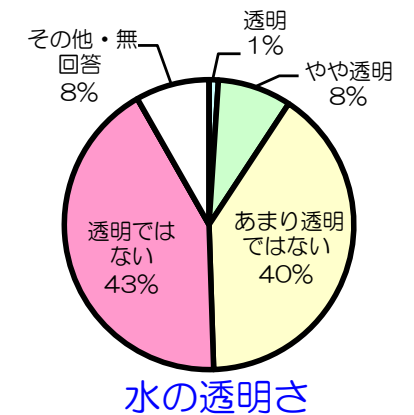
半数以上の方が「ゴミは見当たらない、または全く気にならない」と答えました。



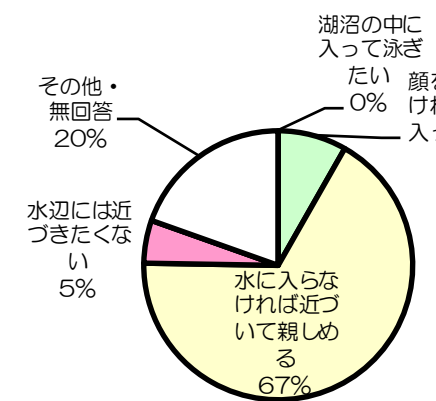
80%の方が水のおいしさについては「不快でない」と答えました。



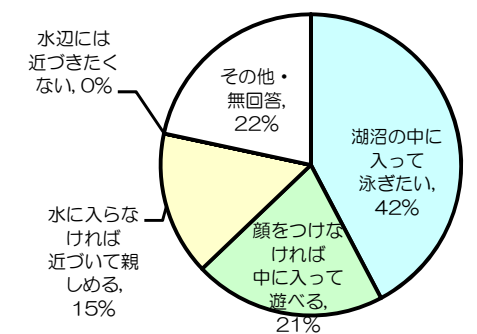
83%の方が「アオコは確認できない」と答えました。



ほとんどの方が「透明ではない」または「あまり透明ではない」と答えました。



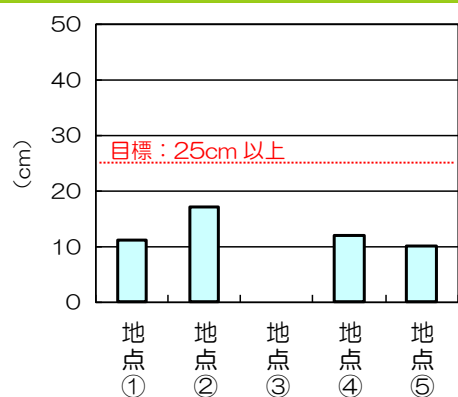
「水に入らなければ近づいて親しめる」という回答が67%で最も多くなりました。



「泳ぎたい」と思うきれいな湖沼になってほしいという回答が最も多くなりました。

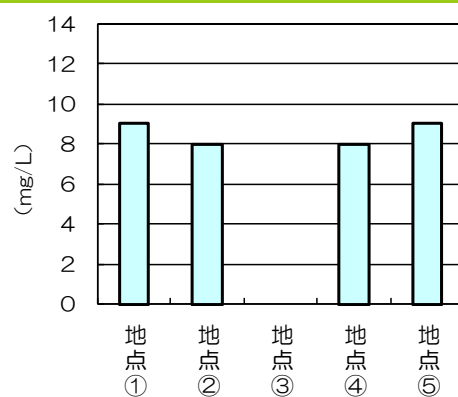


## 簡易水質調査の結果



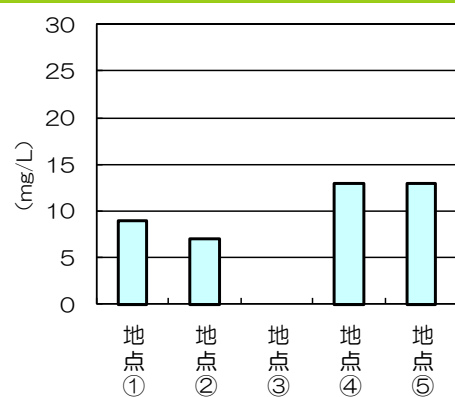
透視度

透視度（水の透明さの程度）は 10～17cm で、目標の 25cm には届きませんでした。



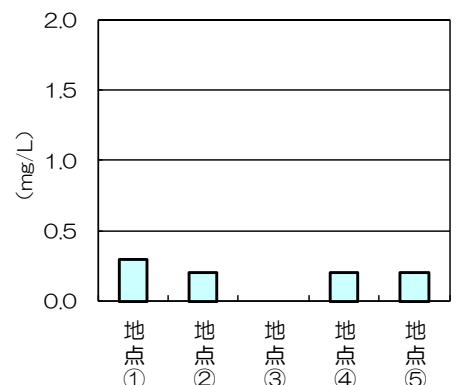
溶存酸素 (DO)

生物の生息に必要な、水に溶けている酸素の量 (DO) は、簡易測定で 8～9mg/L でした。



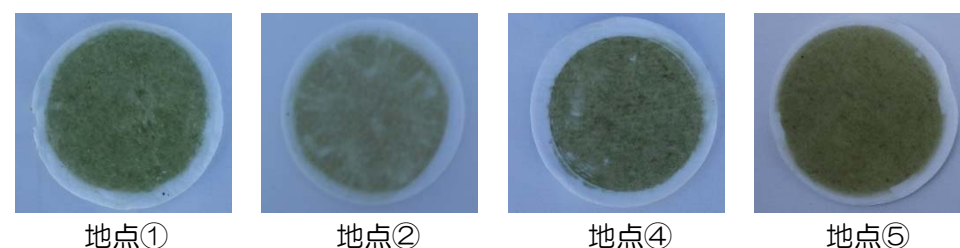
化学的酸素要求量 (COD)

有機物による水の汚れの程度を表す COD は、簡易測定で 7～13mg/L でした。



アンモニア態窒素 (NH<sub>4</sub>-N)

生物の死がいなどが分解されてできるアンモニア態窒素は、簡易測定で 0.2～0.3mg/L でした。



クロロフィルの簡易確認

注射筒とろ紙を使って、200mL の水をろ過しました。ろ紙の色は、いずれの地点も茶色がかかった緑色になりましたが、地点によって若干異なりました。



## 河川管理者（静岡県）による測定結果

測定項目	SS (mg/L)	濁度 (度)	クロロフィル a (μg/L)	糞便性大腸菌群数 (個/100mL)	溶存酸素 DO (mg/L)	化学的酸素要求量 COD (mg/L)	アンモニア態窒素 NH <sub>4</sub> -N (mg/L)
調査地点①	16	37.3	83	140	10.9	7.7	0.05
調査地点②	15	32.4	72	130	9.4	7.0	0.04
調査地点③	-	-	-	-	-	-	-
調査地点④	20	40.0	73	130	10.7	7.6	0.01
調査地点⑤	24	38.4	59	640	9.9	8.1	0.02

溶存酸素 (DO)、アンモニア態窒素 (NH<sub>4</sub>-N) はおもに底のほうにすむ生物がすみやすい環境であるかを調べるため、底層の水を採取して調べています。

## 生物調査の結果

### 水生生物の採取

ペットボトルで作ったしかけやタモ網を使用し、水辺にすむ生物の調査を行いました。調査は地点②、⑤の2地点で行いました。甲殻類はテナガエビ、ウシエビ、モクズガニなど、魚類はウロハゼ、コトヒキ、オイカワなどがとれました。



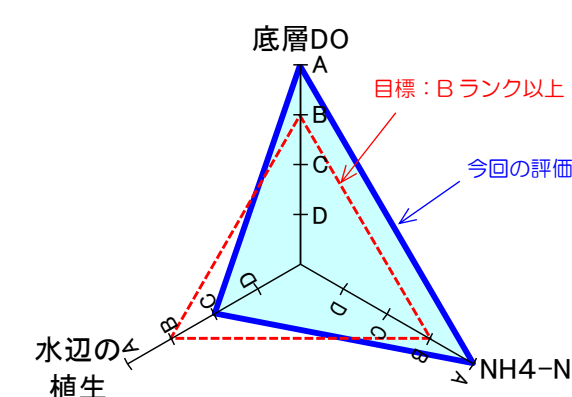
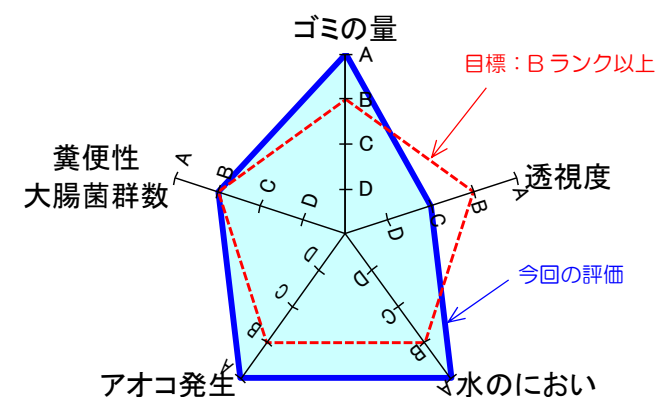
### 佐鳴湖でとれたウナギの観察

入野漁業協同組合にご協力いただき、今回の調査では佐鳴湖でとれたウナギの観察を行いました。佐鳴湖のウナギを見たことがないという方もおり、水槽をのぞきこんだり、触ってみたり、みんなで熱心に観察しました。



## 湖沼における新しい水質管理指標（案）による評価

みなさんの調査の結果と河川管理者（静岡県）による測定結果を、平成 22 年度に国土交通省より発表された評価方法で評価しました。下のグラフは、今回調査した 4 地点の評価を項目ごとに平均したものです。佐鳴湖の当面の目標は、すべての項目で B ランク以上になることです。今回は「透視度」と「水辺の植生」が C ランクとなり、目標は達成できませんでした。一方、のべ 32 個（8 項目×4 地点）の調査項目のうち、A ランクを獲得したのは 20 個（全体の 63%）で、前回夏の調査より 2 個増えました。



おわりに 調査のあと、入野漁業協同組合さんのご厚意により佐鳴湖の天然うなぎの蒲焼をご提供いただき、みんなでおいしくいただきました。さて、次回の調査は平成 29 年 2 月を予定しています。たくさんのご参加をお待ちしています！



この調査結果の詳細については、こちらまでお問い合わせください。

お問い合わせ先：佐鳴湖地域協議会

（事務局）静岡県浜松土木事務所 企画検査課 (053-458-7266)

